

2005年 2月15日発行（隔月刊）



う 羽 化 か

2005年2月
第48号

横 浜 漢 点 字 羽 化 の 会
 〒231-0851 横浜市中区山元町2-105 Tel 045-641-1290
 発行責任者 代 表 岡 田 健 嗣
 編集責任者 宇田川 幸 子

桜草 ほのかに香る



目 次

五十肩に対する理療施術の効果 ～パルスを中心に～（専攻科理療科3年 宇都宮太郎）	1
酔夢亭読書日記（7）（安田 章）	6
漢点字テキストから	8
2004（平成16）年を振り返る（岡田 健嗣）	12
漢文のページ	17
ご報告とご案内	19

五十肩に対する理療施術の効果 ～パルスを中心に～

専攻科理療科3年 宇都宮太郎



「以下は、何時もご寄稿いただいている、栃木県立盲学校の、小池上惇先生からいただいたものです。」

今回は本校の生徒が行った症例研究を紹介します。

内容的には少し難しいかもしれませんが、本校学生の学習の一端を知っていただけるのではないかと思います。

一．はじめに

理療科の時間で鍼麻酔を用いた手術が行われていることを知り、その一年後に自分が一番辛いと思っていた左頸部僧帽筋のこりに対するパルス療法の効果を実感したことからパルス療法に興味を持ち、その効果について研究することにした。対象疾患として、その効果が客観的に評価しやすい五十肩を選んだ。

しかし、五十肩の治療ではパルスのみでなくあん摩や運動法を加えたほうが効果を得られると考え、パルスを中心に総合的な治療を行った。

二．鍼麻酔とは

鍼麻酔は鍼を電極とした低周波通電により疼痛閾値を上昇させ、皮膚切開が可能な状態、すなわち麻酔のかかった状態にすることである。(触圧覚・温度覚は正常、意識レベルもほぼ平常状態を保つ)

一九五〇年代

中華人民共和国より研究が始まった。

一九六〇年代

中国各地で臨床研究に移された。

一九七〇年前半

約四〇万人に対し鍼麻酔による手術が行われ、九〇％程度の成功率が報告。

三．五十肩(肩関節周囲炎)とは

四〇歳以降で特に五〇歳から六五歳の間に最も多く発症することから、五十肩と呼ばれている。

症状としては、肩関節および上肢の運動障害と同部位の著しい疼痛を主張する疾患である。

腱・靭帯・滑液胞などの炎症による疼痛とこれに伴う肩関節の拘縮が起こり、運動制限が現れる。

周辺疾患としては、上腕二頭筋長頭腱鞘炎・腱板炎・肩峰下滑液包炎・石灰沈着性腱板炎・腱板断裂などで、いずれも非外傷性のものである。

病院での治療としては、肩甲上神経ブロックやステ

ロイド剤の肩関節部への注入なども行われている。

四・症 例

患 者 六五歳 女性

(臨床室に来てしている患者)

再診年月日 平成十六年七月七日

主 訴 右肩が痛くて動かせない

現病歴

昨年十二月頃肩関節の違和感に気づき、今年の三月頃から右肩関節と上肢が締めつけられる感じがする。

運動痛がたつらく、頭を洗ったり、洗濯物を干す時など挙上時に痛みが増悪する。平成十六年五月十八日より本校で治療を受け始めた。

一般症状

片頭痛が四〇年前頃から時々起こる
(病院での薬を服用)

診察所見

陽性所見…ストレッツチテスト、ペインフルアークサイン、結髪、結帯

関節可動域…屈曲九〇度

外転六〇度、伸展不能

圧 痛…右天宗、肩貞、間溝、曲垣

特になし

既往歴
家族歴

特になし



施術目的

右肩関節の運動時痛の除去
右肩関節の可動域の増大

施術法 あん摩…頸肩背上肢

(肩関節の運動法を入れながら)

パルス…右間溝、右天宗

(二ヘルツで一〇分)

置 鍼…右肩貞、右曲垣

鍼はすべて寸三の三番を用いる

五・経 過

第一回目 七月七日

診察をし、施術法を決めた。運動痛はかなりひどく、結髪不能でやつと頭がさわられるぐらいだった。

第二回目 九月六日

術前ROM 屈曲一四二度伸展三二度外転七二度

結帯(第七頸椎から脊中) 四二cm /
(母指から脊中) 四 cm

術後ROM 屈曲一四五度伸展三二度外転七三度

結帯三八cm / 三・五cm

所 見 二ヶ月の休みが入り、左肩関節も屈曲する

と痛みが出てきたとのこと。

左天宗に強い圧痛・硬結がある。腹臥位であん摩を

し、そのまま両方の肩関節の痛みに対し、パルス療法を行った。左肩関節にも間溝と天宗をつないだ。

第三回目 九月十五日

術前 屈曲一四一度伸展三四度外転八十八度

結帯四一cm / 三・五cm

術後 屈曲一四五度伸展三四度外転九七度

結帯三六cm / 三・五cm

所見 屈曲は楽になってきたが、伸展、結帯がともつらいとのこと。

左肩関節の運動痛はそのままあるとのことなので、治療を続けて行くことにした。

第四回目 九月二十二日

術前 屈曲一四七度伸展三七度外転一〇七度

結帯(第七頸椎から母指)四〇cm

術後 屈曲一四四度伸展三九度外転一〇四度

結帯三六cm

所見 最近、左肩関節の痛みが肩甲外縁の方に強くあるとのことなので、膈俞と天宗をつないでパルス療法を行った。

第五回目 九月二十八日

術前 屈曲一四四度伸展三八度外転九一度

結帯三八cm
術後 屈曲一四七度伸展三九度外転九九度
結帯三五cm

所見 昨日寒かったせいかわ、右の三角筋中部線維に痛みがあるとのこと。ROMも小さくなっていった。

腹臥位での間溝の刺鍼がしにくいことから、今回から座位で行うことにした。

第六回目 一〇月十三日

術前 屈曲一四九度伸展三八度外転一〇四度

結帯三三cm

術後 屈曲一四八度伸展三六度外転一一九度

結帯三〇cm

所見 先週空いてしまったのと、天候が悪い日が続いたので、重い感じがするとのこと。

特に右の回内をすると肩関節の後部に痛みが走ること。

第七回目 一〇月二〇日

術前 屈曲一五〇度伸展四〇度外転一一七度

結帯三一cm

術後 屈曲一四九度伸展三九度外転一一九度

結帯三十cm

所見 運動痛が随分楽になり右手で左上腕をつか

めなかつたのが、つかめるようになった。

左は天宗や肩甲内縁に沿っての圧痛がひどくなっている。

第八回目 一〇月二七日

術前 屈曲一五一度伸展四二度外転一一四度

結帯二九cm

術後 屈曲一五二度伸展四三度外転一一三度

結帯二九cm

所見 ドライヤーを使い、髪をさわれるようになったとのこと。上肢を下げたままなら、肩関節を回した時の痛みもなくなった。

左肩関節の外転はつらく、三角筋後部線維から肘にかけて痛みが走るとのこと。

第九回目 十一月二日

術前 屈曲一五三度伸展四三度外転一一六度

結帯二七cm

術後 屈曲一五三度伸展四二度外転一一一度

結帯二八cm

所見 右手で、左肩関節の痛みのある膈俞周囲をもめるようになったとのこと。

第一〇回目 十一月一〇日

術前 屈曲一五七度伸展四五度外転一三三度

結帯二七cm

術後 屈曲一五七度伸展四四度外転一四一度

結帯二八cm

所見 右肩関節を下にして眠れるようになり、自覚的にも他覚的にも硬結・圧痛がなくなった。

第一一回目 十一月九日

術前 屈曲一五五度伸展四六度外転一四二度

結帯二八cm

術後 屈曲一五六度伸展四四度外転一三五度

結帯二八cm

所見 いつも、治療が終わってから三〇分から一時間ぐらいすると楽になってくるとのこと。

右肩関節の痛みはほとんどなくなってきたようである。

第十二回目 十一月二四日

術前 屈曲一五八度伸展四九度外転一四六度

結帯二七cm

術後 屈曲一五七度伸展四七度外転一四二度

結帯二八cm

所見 寝違えて左頸部に痛みがあるとのこと。乳突筋のあん摩を入念に行った結果痛みはとれたよ

うだ。左肩甲内縁の圧痛・硬結が強くなってきているが、右の時のように運動痛は強くないとのこと。

第十三回目 十二月二日

術前 屈曲一六一度伸展四語度外転一四九度

結帯二七cm

術後 屈曲十六二度伸展四三度外転一五〇度

結帯二六cm

所見 右はずいぶん楽になったが、左が五十肩になつてしまい、治療が途中なのは残念である。

六．結果

一回目の施術からみると施術後すぐは少しROMが小さくなるが多かつたが、最終的には一回目より屈曲七二度、伸展四三度、外転九〇度とかなり可動範囲が大きくなった。

結髪もさわることでだけでもつらかつたのが、今は洗髪に何の支障もなくなつた。結帯は脊柱にさわることも出来なかつたのが、下着のホックを無理なく留められるようになった。

何よりも痛みがなくなつたことをとても喜び、四〇年続いていた片頭痛も楽になり、一〇月に入ったころから病院でもらつて来る薬を飲まなくなつたとのこと。

と。

七．終わりに

「鍼灸実技」という本に、施術後三〇分から一時間ぐらいで効果が出るのが望ましいとあつたので、次に機会があつたときは、すぐ効果が出るにはどうしたらよいかをテーマにやってみたいと思う。

一回の施術時間も足らなかつた気もするので、あん摩の一部の運動法ではなく、もう少しゆっくり運動法としての時間もとりたかつた。

時期がくれば治つてくるという疾患ということもあり、結果がはっきり出てくるので施術者としても毎回楽しく施術が出来た。

また、臨床の授業の中でこの結果を得ることができ、分析に多くの時間を使うことができました。

この研究にあたり便宜をはかっていただいたことに感謝します。今後、この臨床体験を生かし、よりよい施術者になれるよう努力していきたいと思ひます。

△参考文献▽

痛みの鍼灸治療

鍼灸実技

鍼灸の世界八二

医道の日本社

オリエンス研究会編

一六年七月号



酔夢亭読書日記 第七回

安田 章



韓非子 その一

中国四〇〇〇年の歴史という。

中国の「歴史の父」司馬遷によれば、中国の歴史は黄帝をもって始まるものとされる。

黄帝を始祖とすれば、黄帝開国即位紀年でいえば西暦二〇〇五年は四七〇三年ということになるらしく、まさに中国には四千年以上の歴史が確かにあるわけである。

しかし、黄帝を始めとし堯、舜で終わる五帝の時代以前にも三皇の時代というものがあり、それ以前には盤古という神様が混沌とした世界を打ち破り、天地を開闢したと伝えられている。

「五帝が倫（みち）を定めたのに感応して、世界は四大部州にわかれ」、その中のひとつの州に東勝神州（とうしょうしんしゅう）というものがあり、その東勝神州の海の外には傲来国（ごうらいこく）という国があり、傲来国は大海に接しており、その

海の中には花果山が・・・、とくるとご存知、「西遊記」の世界である。

三皇、五帝の時代はいわば神話的時代である。五帝の最後の帝、舜は、堯から六一歳で帝位を受け継ぎ、三九年間働いた、というから我ら凡人も歳だから引退だ、などと安直に言わないように致しましてよう。

舜の重臣の一人、禹（う）が舜のあとを継ぐことになるが、この禹を始祖とするのが夏王朝である。五帝の時代は有徳者から有徳者へと帝位が禅（ゆず）られるいわゆる禅譲が慣わしであったが、夏王朝をもって血縁的統治である世襲制へと移行した。禹で始まった夏王朝は五〇〇年近くつづいた後、一七代目の桀（けつ）が殷の湯王（とうおう）に滅ぼされ幕を閉じた。

殷王朝が成立したのは紀元前一六〇〇年頃と推定されていて、歴史的事実が明らかなのは殷王朝中期の頃からであると言われている。ゆえに歴史的事実の証明という観点から言えば、中国三五〇〇年の歴史と言うべきか。

殷の時代に文字が発達し、三〇〇〇字近い文字がそろい、現在の漢字の祖型となっていて、東アジア

の漢字文化圏を作り上げた。

さて、我らの韓非子が歴史に登場してくるのはまだまだ先で、酒池肉林、炮烙（ほうらく）の刑で有名な殷の紂王（ちゅうおう）が周の武王に滅ばされ（殷周革命）、その周の統治も緩む春秋戦国の時代である。周の封建制が崩れ、秦の始皇帝が全国制覇するまでの約五〇〇年をさす時代である。

この春秋戦国時代に諸子百家という思想家群がきら星の如く出現し、「仏教を除き、以後二〇〇〇年以上にわたる中国の歴史のなから生まれるすべての思想の原型は、ことごとくこの時代に萌芽した」。

「諸子とは多くの学者先生といった意味で、百家とは多数の学派の意味」で、「実際に諸子の学派が百もあつたわけではない」そうである。

（儒家）、（道家）、（陰陽家）、（法家）、（名家）、（墨家）、（縦横家）、（雑家）、（農家）、（小説家）、（兵家）などがある。

以前書いた孫子はもちろん

（兵家）である。

韓非子は法家であり、



春秋戦国時代の戦国末に法家思想を集大成し、秦の始皇帝を魅了した思想家である。

ということ、今回はここまでにし、次回から韓非子をメインにしながら中国の思想やその他の事もつれづれにつづつていきたいと考えている。

参照、引用文献

「諸氏百家」 浅野裕一（あさの・ゆういち） 講談社学術文庫

「諸氏百家」 貝塚茂樹（かいづか・しげき） 岩波新書

「韓非子」上 安能務（あのを・つとむ） 文春文庫

「中国思想」 宇野哲人（うの・てつと） 講談社学術文庫

「韓非子」 富谷至（とみや・いたる） 中公新書

「物語中国の歴史」 寺田隆信（てらだ・たかのぶ） 中公新書

「西遊記」(一) 小野忍（おの・しのぶ） 訳

岩波文庫



漢点字テキストから



【現在本会では、オリジナルのテキストを使用して、漢点字の講習を行っています。通信制を基本に、隔月にスクーリングを行います。

スクーリングは、漢字への興味を深めていただけのように、字源に触れながら、レーザーライターや点線文字など、触知できる資料を使用して、基本的な文字の字形にも親しんでいただけのように工夫しております。漢点字が如何に漢字のエッセンスを体現しているか、ご理解いただけるよう願っております。

以下は、現在製作中のテキストから、既にご紹介したものを除いた「基本文字」の項の前半です。なお、この先にも三つの「基本文字」が用意されています。完成の暁には、ご紹介させていただきます。

基本資料は、川上泰一先生の編まれた『漢点字解説』から作成した岡田のノート、参考資料として、白川静先生編『字統』・『常用字解』（平凡社）、藤堂明保先生編『漢字源』（学習研究社）に大きく依存しています。】

四 基本文字（三）

比較文字

本章では、三つ目の〈基本文字〉をご紹介します。

〈基本文字〉とは、「偏」とか「旁」とか、他の文字の部首（パーツ）となる、最も小さい単位の文字を言います。これまでに〈漢数字〉と、一マスで表す〈第一基本文字〉をご紹介します。

今回は、〈比較文字〉と呼ばれる文字です。

第一基本文字に「比 $\begin{smallmatrix} \cdot & \cdot & \cdot \\ \cdot & \cdot & \cdot \\ \cdot & \cdot & \cdot \end{smallmatrix}$ 」という漢点字がありましたが。これは、「ヒ、くらべる」と読みますが、漢数字の漢数字「 $\begin{smallmatrix} \cdot & \cdot & \cdot \\ \cdot & \cdot & \cdot \\ \cdot & \cdot & \cdot \end{smallmatrix}$ 」と同様に、一マス目に〈比 $\begin{smallmatrix} \cdot & \cdot & \cdot \\ \cdot & \cdot & \cdot \\ \cdot & \cdot & \cdot \end{smallmatrix}$ 〉の点字符号「 $\begin{smallmatrix} \cdot & \cdot & \cdot \\ \cdot & \cdot & \cdot \\ \cdot & \cdot & \cdot \end{smallmatrix}$ 」（四五の点）が置かれる文字です。

この漢点字は、二マス目に来る点字符号が部首となつて、他の多くの文字を構成します。

この〈比較文字〉は、川上先生の発案になるものです。先生のお考えの〈基本文字〉が、如何に整理され分類されたものか、この〈比較文字〉から、最も斬新的な形で示されていることをご理解いただけるものと思えます。

この〈比較文字〉は二つに大別されます。

①意味の上で、小さなグループを作る文字…「上と

下」「右と左」「父と母」のように、意味的に、対、あるいはグループをなす文字です。

②長さ・重さ・容積などの単位…ここではいわゆる「尺貫法」の単位を表す文字です。既に「分、合」が出て来ていますが、多くはこの〈比較文字〉に含まれる文字で表されます。

「内容の詳細は、省略します。」

六 基本文字 (四)

発音文字と漢数字(二)

本章では、四つ目と五つ目の〈基本文字〉をご紹介します。

(中略) これまでに〈漢数字(一)〉、一マスで表す〈第一基本文字〉と、〈比較文字〉をご紹介します。

今回は、〈発音文字〉と、〈漢数字(二)〉です。

〈発音文字〉は、数は少ないのですが、大変大事な文字ばかりです。他の基本文字のグループに入れ難いために、川上先生は、読みを取り入れて、別個に作られました。

ここでは十個の文字をご紹介します。

〈漢数字(二)〉は、これまでにご紹介した漢数字

とは趣を異にしています。

初めは随分古めかしいものばかりだな、とお感じになるかもしれません。一つ一つ取り上げると、今現在、使わなくても済む文字かもしれません。

しかし、部首となつて多くの文字を構成しますし、そんな文字の読みや意味にも、大きく反映されるものです。その意味では、もう少し先に行つて、これら一つ一つの文字も、大事な文字だということがお分かりいただけるようになります。

この〈漢数字(二)〉も、十個をご紹介します。

一・発音文字

*ご紹介の順は、漢点字の符号をカナ読みして、それらを五十音順にしたものです。

「ご紹介の十個の文字は、「円」、「鬼」、「告」、「事」、「生」、「争」、「拜」、「反」、「民」」です。詳細は省略します。」

二・漢数字(二)

ここに〈漢数字(二)〉としてご紹介するものは、「こう、おつ、へい、てい、…」と、ものの順序や優劣を表すときに用いられる、十個の文字です。〈十

干（じっかん）と呼ばれます。

昔中国で、月の満ち欠けの日数である約三十日を、一月としました。

それをさらに三等分したのを「旬」と呼んで、「上旬・中旬・下旬」としました。



それぞれの「旬」は十日ずつあって、その日の順序を表したのがこの十個の文字だと言われます。

下つてこの十個の文字は、中国のものの考え方である「陰陽（いんよう）」と「五行（ごぎょう）」に割り当てられることになります。これが「干支（えと）」です。

「干支」では「陰陽」を、「兄（え）」と「弟（えい）」（このテキストでは、まだ出て来ていません）で表します。

「兄（え）」が「陽」、「弟（えい）」が「陰」です。これが「えと」と呼ばれる元です。

「五行」は、「木（もく）」・火（か）・土（ど）・金（こん）・水（すい）」の五つの元素です。この五つの元素が、この世の森羅万象の物を作り、現象を司っていると考えられました。

この「五行」を「兄（え）・弟（えい）（干支、陰陽）」の二つに当てて、それをさらにこの十個の文字に当てた

のが、この（十干）です。

もう一つ、ここでは詳細に触れませんが、（十干）と切っても切れない関係にある（十二支（じゅうにし））について、簡単に紹介します。

現在は天文学も発達して、私たちが使っている暦も、宇宙規模の計算に基づいて作られたものです。

一年の始まりを何時にするかといった相違はあるにしても、基本的には、世界は一つの暦を使っていると、思ってよいでしょう。

しかし文字ができたころは、暦を作ることが、為政者の大きな仕事でした。（十二支）は、その暦作りの法則、黄道を十二等分して一年を表すものから生まれました。

暦は一年を単位としますが、それを一日に当てはめれば、十二等分の時刻を表すことになります。また地理に応用すれば、十二の方角を示すことになります。

このように（十二支）は、暦・時刻・方角の基準として発達したものでした。



私たちが知っている（十二支）は、十二の動物で表されています。「子（ね）・丑（うし）・寅（とら）・卯（う）・辰（たつ）・巳（み）・午（うま）・未（ひつじ）・申（さる）・酉（とり）・戌（いぬ）・亥（ぶた）」

（み）・午（うま）・未（ひつじ）・申（さる）・酉（とり）・戌（いぬ）・亥（ぶた）」

(さる)・酉酉(とり)・戌戌(いぬ)・亥亥(い)です。「子子」と「未未」の二つは、既にこのテキストでご紹介しました。

時刻を表す場合、「子子」が現在の午前〇時、「午午」が十二時、つまり「正午」です。方角を表す場合は、「子子」が北を、「午午」が南を表します。

地球上に引かれた経線で、標準時を表すものを「子午線」と呼びますが、これは真北と真南を結ぶ線という意味です。

このように、「子子」と「午午」は、位置の関係が対極的です。

〈十干十二支〉とは、以上の〈十干〉と〈十二支〉を合わせて呼んだものですが、これは主に、一年を単位に当てて用いられます。

「木木の兄兄・子子」から始まり、「水水の弟弟・亥亥」で終わる周期になって、六十年で一巡します。

この周期から、考古学上の出土物に記されている年号を推計することができます。

例えば、埼玉県の稻荷山古墳から出た鉄



剣に、「辛亥年七月」とあって、このことから西暦で四七一年かその六十年後の五三一年であることが知られます。

ちなみに二〇〇五(平成十七)年は、「乙酉(木木の弟弟・とり)」の年です。

川上先生はこの〈十干〉を、順序を表す文字として、〈漢数字〉の仲間に入れられました。

漢点字では、漢数符(五・六の点)が前置されて表されます。

「ご紹介の文字は、「甲甲」「乙乙」

「丙丙」「丁丁」「戊戊」「己己」

「庚庚」「辛辛」「壬壬」「癸癸」です。

詳細は省略します。」



2004(平成16)年を振り返る 岡田 健嗣

本誌は、本会機関誌『うか』の、二〇〇五(平成十七)年最初の、二〇〇四(平成十六)年度最後の号です。

昨年は、これまでになく、多様な動きのあった年でした。

そこでこの場を借りて、一年を振り返るのも、意義のあることと考えました。

一 活動から

本会の活動の主眼は、言うまでもなく漢点字書の製作にあります。

その意味では例年通り、読者のニーズに応えること、そのための計画を立て、作業を分担して、会員相互の協力によって遂行して参りました。

プライベートなニーズへの対応ばかりでなく、横浜市中央図書館への納入図書製作、「横浜通信」(漢点字に親しんでいただけるよう、記事をオリジナルに選択・編集して、漢点字訳したもの)、「朝日歌壇・俳壇」(毎週朝日新聞に選出・掲載される、短歌と俳

句の欄を漢点字訳したもの)、「新聞の健康記事」(朝日新聞・読売新聞に掲載される健康記事から選択して漢点字訳したもの)等、定期的な刊行物の製作・発行も、遅滞なく行われました。

今日現在もこの三月末を目標に、今年度の中央図書館へ納入を予定している漢点字訳図書『地名苗字辞典』の、割付け・巻分け、打ち出し・製本等の、最終の作業を進めております。

もう一つ忘れてはならないのが、本誌、機関誌『うか』の発行です。

本号は四十八号に当たり、隔月の発行で、満八年を終えようとしています。

この間、執筆陣も充実し、また、横浜国立大学の村田忠禧先生を初めとして、会内外から多くのご寄稿をいただくことができ、豊かな紙面作りとなって参りました。四十三号からは、後で触れますように、「トータル・ヒューマンネット(THN)21の機関誌「うざれば」と合体した形態となりました。

編集と印刷・製本の作業には、会員の皆様のお力に、全面的に依存しております。感謝に堪えません。

視覚障害者向けには、音訳版の製作をお願いしております音訳ボランティアの皆様のご献身に、全面的に依存しております。深く感謝申し上げます。

二 漢点字の講習

漢点字の講習会も、この四月で満二年を迎えます。この間に、一つの形ができて来たように思われます。

講習は、本会がオリジナルに作製したテキストに沿って、受講者の皆様のご自宅で勉強していただく形を採っておりますが、隔月に、スクーリングと称して、受講者の皆様と本会の会員が出席して、学習会を行っております。

当初は、正に手探りの状態でしたが、この二年間に、晴盲を問わない、漢字をめぐる歓談の様相を帯びて参りました。

楽しみながら学ぶ、また恥ずかしがらずに、素直に日頃の疑問を提出して、漢字を中心に、言葉について考えております。出席者一同の参加できる形になりつつあるように感じております。

この五月から三年目に入り、新たな受講者を迎えるうとしております。テキストも徐々に完成して、視覚障害者の「識字」の一步を記すべく、着実な足取りを確保できるよう努力して行く所存です。

テキストに関しては、その製作に当たって、多くの皆様のお力をいただいております。また機関誌『う



か』と同様、音声訳もお願いしております。お力添えいただいております皆様に、深く感謝申し上げます。

三 横浜国立大学の公開講座

七月三十日（土）に催された、横浜国立大学・教育人間科学部教授・村田忠禧先生の主催になる公開講座、『二十一世紀の漢字文化を考える』において、『漢点字』を取り上げていただきました。不肖私が、お話しをさせていただきました。

講演は、村田先生、馮良珍先生（横浜国大教授）、そして私の順に行われました。

演題は、（一）日本と中国におけるコンピュータにおける漢字コード体系の現状と問題点について（村田忠禧先生）、（二）日本と中国との漢字改革の共通性と個別性、およびその統一化の可能性について（馮良珍先生）、（三）漢字を表現できる点字Ⅱ「漢点字」とは何か、およびその国際化の可能性について（岡田）。先生方のお話は、大変興味深く拝聴させていただきました。

とりわけ馮先生のお話の「漢字の成り立ち」は、『漢点字』を創案されるに当たっての、川上先生のご苦労なさったところとほぼ合致するもので、『漢点

字)が(漢字)の構成を基本に組み立てられていることを、再認識した思いでした。

その意味で、村田先生の言われる「漢点字は究極の『簡体字』である」ということも、うなづける思いでした。

当日は大阪から、川上先生の奥様と、京都から、日本漢点字協合理事加藤俊和様が駆けつけて下さり、心強い思いでお話しをさせていただきました。

本会会員の皆様とTHN21の皆様には、多くご参席いただきましたことに、深く御礼申し上げます。

この模様は、ビデオテープとDAISYに収録して、DAISY版は、漢点字協会を通して、同会員に配布していただきました。

また、漢点字を使用していない方々にもお聞きいただきたいと願って、神奈川県ライトセンターを初め、幾つかの施設に寄贈して、希望者に配布していただきました。

ライトセンターから、予想を超える希望者数で、視覚障害者の、漢字に対する関心の高さを再認識した旨のご報告がありました。大変朗報と受け止めております。

今後村田先生には、(国際漢点字)の観点から、多くのご教示をいただけることと存じ、益々勉強するこ

とが増えた思いです。

四 日本漢点字協会

昨年は三度大阪へ参りました。

後で触れるTHN21の定款に、「漢点字の普及」を謳うこととなり、そのご報告と本会の活動のご報告を兼ねて、川上先生の奥様を、二月にお訪ね致しました。

その次は、協会の、点字の記号を検討する「記号検討委員会」にお招きいただいて、七月にお訪ね致しました。

三度目は、川上先生のご逝去十周年を記念する式典が催されたのに合わせて、十一月にお訪ね致しました。

本来でしたら本会の活動も、協会の方針に沿って進めることが肝要と思われませんが、ニーズ主体の本会の活動は、必要性に応じるものになって、独自の傾向が強まりがちです。漢点字訳のボランティア・グループとしては、やむを得ないものと考えます。各地で活躍しておられる同様のグループも、それぞれに独自の活動を展開されておられます。

願わくば協会に、そのような各地の活動の、情報の



収集と分析と発信の中心的な役割を、一層強力に果たしていただければ、漢点字の普及も、大きく歩を進めることになるうと考えます。

先にも述べましたように、漢点字に対する潜在的な関心は、思いの外高いものと考えてよいようです。

これまで私たち漢点字の普及を祈念する者たちは、そのような表立たないニーズを、掴み損ねていたのではないかと考えるようになりました。ニーズは、地中深く沸々と存在しつつ、地上に現れる機会を待っています。

しかし、〈文字〉を独力で習得するということは、それほど容易いものではないのではないか、そのためにニーズは、さらに姿を潜ませてしまう、今の私には、そう思われてなりません。

昨年本会は、日本漢点字協会のご推薦で、日本盲人社会福祉施設協議会の表彰を受けました。

これまでの活動を評価されたものと、感謝申し上げます。

表彰式は、五月十四日に、名古屋ライトハウスが主館となつて、名古屋観光ホテルを会場に執り行われました。

本会からは、名古屋在住の平瀬様、森様、大樹会の



高嶋様にご出席いただきました。大変ありがとうございました。

名古屋の皆様とは、今後も大いに交流をはかって、バラエティーに富んだ活動を、創造して行きたいと願っております。

五 トータル・ヒューマンネット (THN) 21

東京・港区を拠点に、特定非営利活動 (NPO) 法人として立ち上げられた同会は、その定款に、初めて「〈漢点字〉の普及」を謳うこととなりました。

〈識字〉の概念に立脚して、現在の視覚障害者が置かれていた〈文字〉の状況を見ると、それは〈非識字〉に他ならないという共通認識から、日本語の標準的な表記法である「漢字仮名交じり」を、点字の世界にも実現すべく活動することが申し合わされました。

同会はもう一つ、知的障害者を対象としたグループホームの運営を活動の柱としていて、現在はその立ち上げに注力しているところです。

昨年秋より、港区の保健福祉センターを会場に、漢点字の学習会を、月一回のペースで始めました。

視覚障害者の文字の状況を、まずは認識として共有



するとところから始めて、また、漢点字の構成の学習を通して、〈漢字〉の持つ意味についても、再認識して行こうと考えております。

当初から私は、同会に理事として参加させていたでいておりますが、漢点字部門の強化を期して、田中秀臣様と木村多恵子様お二方の理事への就任をお願い致しました。

本誌・羽化の会機関誌『うか』は、昨年四月発行の四三号から、同会機関誌『うずれば』と合体の形態となり、新たなスタートを切りました。

同会の漢点字部門では、今後の活動の方向性として、以下のようなことを考えております。

①港区で行っている学習会の充実… 現在には会に関わりの深い方々のご参加を得て進めておりますが、さらに広範囲なご参加を期待して、内容の充実と洗練に努める所存です。この学習会をパブリシティと位置付けて、出来れば具体的な活動の礎石となることを願っております。

②漢点字の普及活動… 現在の港区内の学習会には、漢点字の習得を希望される視覚障害者と、漢点字訳ボランティアを志望される晴眼者の方は、お出でではありません。パブリシティとしてはこの活動を礎に、何らかの講座の開設を目論みたいと考えており

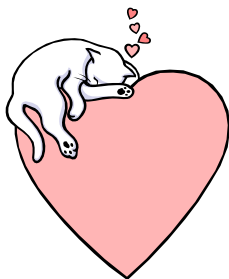
ます。

a. 漢点字の指導… 横浜で行っている講習会をモデルに、企画したいと考えます。ただし、東京という極めて難しい土地柄であることから、予め入念な調査が必要と考えます。

b. 漢点字訳ボランティア講座の開設… これも本会の活動をモデルに、コンピュータを使用してのボランティア活動を志望される方を対象に行うことは、十分可能と考えます。今年予定している本会のボランティア講座をたたき台に、具体的な設計を試みる積もりでおります。

何れにせよ、目標を絞った企画を心がける所存です。

以上、誠に不十分なものではありませんが、昨年を振り返り、また今後思いを馳せてみました。



漢文のペーシ

桃^{トウ}天^{トウ} 古詩（「詩經」）

宜^{シニカラ}之^シ其^キ桃^{トウ}宜^{シニカラ}之^シ有^{リニ}桃^{トウ}宜^{シニカラ}之^シ灼^{タル}桃^{トウ}
 子^シ葉^シ之^シ其^キ子^シ蕘^{タル}之^シ其^キ子^シ灼^{タル}灼^{タル}之^シ其^キ子^シ灼^{タル}
 于^キ葵^シ天^{トウ}于^キ家^シ于^キ天^{トウ}于^キ家^シ于^キ天^{トウ}于^キ家^シ于^キ天^{トウ}
 歸^ツ葵^ツ天^{タル}歸^ツ室^ニ歸^ツ實^ニ天^{タル}歸^ツ華^ニ天^{タル}
 人^ニ

桃の天天(ようよう)たる 灼灼(しゃくしゃく)たる其の華
 之(この)子于(ゆ)き帰(と)ぐ

其の室家(しつか)に宜(よろ)しからん 桃の天天たる

蕘(ふん)たる其の実有り 之の子于(ゆ)き帰(と)ぐ

其の家室(かしつ)に宜(よろ)しからん 桃の天天たる

其の葉葵(しんしん)たり 之の子于(ゆ)き帰(と)ぐ

其の家人に宜(よろ)しからん

天天(トウトウ) 若々(じやくじやく)しい様子。

灼灼(トウトウ) 真(ま)つ赤(あか)に焼(や)ける意(い)で、燃(も)えるように明(あ)るい花(はな)の色(いろ)を

いう。

于歸(トウキ) 于(ゆ)は行くの意(い)。「歸(き)はとつぐと訓読(くんよく)。嫁(よめ)に行く。

宣(セン) 宣(せん)はよろしい。うまくゆく。

室家(シツカ) 室(むろ)は夫婦(ふうふ)のいるところ、家(いへ)は一家(いっか)の意(い)。

蕘(タル) 実(み)がよくみつけた様子(ようす)。

家室(カシツ) 室家(しつか)と同じ。「實(じつ)は「華(か)」と韻(うん)を揃(そろ)えるため「家室(かじつ)」

とした。「室家(しつか)の「家(か)」は「華(か)」と韻(うん)が同じ。

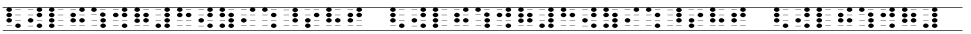
葵(アヲ) 葵(あ)葉(は)のよく茂(さ)る様子(ようす)。「家人(かじん)の「人(にん)」と韻(うん)が同じ。

※ 嫁(よめ)に行く娘(むすめ)の美(うつく)しさ、をたたえ祝福(しゅくふ)する、四言古詩(しごんこし)の

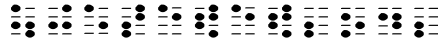
民謡(みんやう)。「詩經(しきやう)」は中国(ちゆうごく)最古(さいこ)の詩集(ししゅう)で、周(しゅう)から春秋(しゅうて)時

代(たい)頃(ころ)までの詩(し)や歌謡(かやう)三百五編(さんびやくごへん)を収(あ)める。いづれも作(さ)者(しや)名(な)は伝(でん)えられていない。

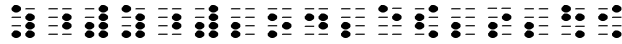




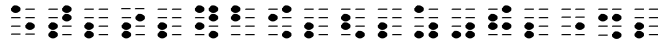
桃 之 夭 夭 タル



灼 灼 タル 其 ノ 華



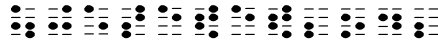
之 ノ 子 于 キ 歸 グ



宜 シカラン 其 ノ 室 家 ニ



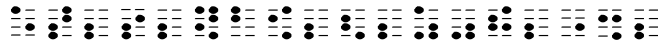
桃 之 夭 夭 タル



有 り 蕢 タル 其 ノ 實



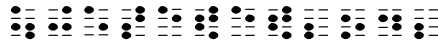
之 ノ 子 于 キ 歸 グ



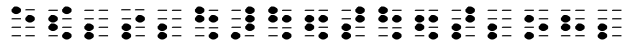
宜 シカラン 其 ノ 家 室 ニ



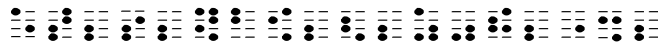
桃 之 夭 夭 タル



其 ノ 葉 蓂 蓂 タリ



之 ノ 子 于 キ 歸 グ



宜 シカラン 其 ノ 家 人 ニ



* 蕢 (𦵏) は、草冠の下に責で、JISにない漢字です。

〈参考図書〉中西清『初歩の漢文』（昇龍堂）
遠藤哲夫『漢文の初級コース』（學燈社）他

ご報告とご案内

一 新年会を行いました。

去る一月二十三日（日）、桜木町ワシントン・ホテルのレストラン・ベイサイドを会場に、新年会を、トータル・ヒューマンネット（T H N）21との共催で行いました。

市議の大滝先生と、横浜国大の村田先生のお越しもあって、また本誌の表紙絵をいただいております岡様とお嬢様にもお越しいただき、和やかに進めら



村田先生



会場の会員たち

れました。

本会は、今年十年目に入ります。これまでも目まぐるしい変遷を経て来ましたが、今後はさらに激しく揺れ動くことが予想されます。

とは言え、本会の活動は日常にありますので、それを基本に置くことが求められます。

会の内外を問わず、本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

二 二つの講座を予定しています。

今年、以下の二つの講座を行う予定です。

①漢点字講習会…一昨年から、横浜市のご後援をいただいで、漢点字の講習を行っております。

今年はその三年目に入ります。

漢点字を学んで、漢字の世界に歩を進めたいと希望される視覚障害者の方、あるいはそのような方が周辺におられる方、そしてそのようなお子様をお持ちの親御様、点訳・音訳活動から漢点字に関心をお持ち下さった皆様は、以下の要領に従って、ご受講下さい。

お待ち申し上げます。

名称…漢点字講習会

主催…横浜漢点字羽化の会

共催・・トータル・ヒューマンネット (THN) 21

後援・・横浜市

講習の進め方・・

オリジナルのテキストに従って、
通信制を基本に学んでいただきま
す。隔月にスクーリングを行っ
て、疑問等にお答えします。

②会員募集、漢点字訳ボランティア講座・・本会では、

パソコンを使用している漢点字訳を行っております。
パソコンをお使いで、ボランティア活動に関心を
お持ちの方、是非 お仲間にお入り下さい。

日程・・

第一回スクーリング、二〇〇五年五月十五
日(日)、14:00～16:00。

日程・・

初回・六月十五日(水)

二回・六月二十二日(水)

三回・六月二十九日(水)

四回・七月六日(水)

全四回・毎週水曜日

時間・13:30～15:30

会場・・

横浜市ボランティアセンター・ボランティア

詳細は次号にて。

アコーナー(横浜市健康福祉センター八

F、JR・市営地下鉄・桜木町駅下車)

費用・・

テキスト代三千円

漢点字用懐中定規三千九十円

会費六ヵ月分千八百円

計七千八百九十円。

お申し込み・・

四月二十日(水)までに、

電話03-3613-3160か、

E-MAILでお願い致します。

E-MAIL: ejb_okada@ybb.ne.jp
URL: <http://ukanokai.web.infoseek.co.jp>

編集後記 インフルエンザが猛威を振るって

ます、皆様お体をご自愛ください。

次回の発行は四月十五日です。

宇田川幸子

※本誌(活字版・テープ版・ディスク版)の無断転
載はかたくお断りします。

表紙絵 岡 稲子